



大草小学校だより

最終号

令和6年3月25日

校長 山口 隆

涙の別れ

春は別れの季節でもあります。3月14日、6年生6名が本校を巣立っていきました。

全校練習の時から悲しくなって泣いていた1年生。本番当日はその1年生だけでなく、多くの在校生が涙する式となりました。6年生は次々に泣き崩れながらも必死にこらえ、式歌を歌い続けました。6年生が流した涙は、充実した1年間を過ごしたからこそ、やりきったからこそ流れてきた涙だったのだと思います。いい加減に過ごしては、あのような涙は流せません。「在校生が泣いてくれる6年生」として立派に成長した6年生。大草太鼓、委員会活動、集団登校、縦割り掃除、全ての行事、そして授業…。まさに学校のリーダーとして成長した姿は私たちの誇りです。山あり谷ありのこれからの人生で、この大草小学校で学んだことは必ず生きてきます。いつまでも応援しています。がんばってください。

卒業式後、来賓として来てくださっていた地域の方から「素晴らしい卒業式でした。私たちも感動しました。」と声をかけてもらいました。

また、3月22日の離任式で、6名の先生方とお別れをしました。

子どもたちはもちろん、多くの地域の皆さんから慕われた教頭先生。元気な笑い声がいつも職員室や運動場に響いていました。行政機関で新たな視点から学校を見つめ直し、また一回り大きくなって帰ってきてください。

43年間の教職生活に終わりを告げた先生。昨今のICT教育にもついて行くどころか、一歩先を行っておられました。1年間休みなく登校した子どもも多かった、かわいい教え子たちの成長を見に、気軽に遊びに来てください。

複式授業のお手伝いをしてくださった先生。新設した複式支援教室はいつもきれいで華やかでした。子どもの思いを大事にして授業をしてくださいました。またぜひ本校に来て、色々な授業に挑戦してほしいのですが、それはまだわかりません。

毎朝学校を開け、掃除をしながら子どもたちを出迎えてくださった用務員さん。学校のあちこちをきれいにし、壊れたものを治したり、使いやすくしたりしてくださいました。保育園勤務となられる予定ですが、かわらず大草塾を支えてください。

学校全体の動きを調整してくださった教務主任の先生。新しく諫早市の学校に入った校務支援システムのことも試行錯誤しながら挑戦し、先生方に教えてくださいました。マンモス校でも多くの子どもたちの名前を覚えることに挑戦してください。

6年間も本校に勤務し、最後は研究主任として授業改善の先頭に立ってくださった先生。毎日昼休みは子どもたちと遊んでくださいました。遠く離れた離島に行かれても、大草で研究したことを生かして頑張ってください。

先生方の最後の言葉を聞いた後、児童代表として御礼の言葉を伝えようとした5年生の子が、感極まって何も言えなくなってしまいました。そのとき、そばに駆け寄って代わりに読んでくれた5年生の仲間たち…。その姿に多くの方がもらい泣きしてしまいました。担任の先生との打合せもあったようですが、迷っていた5年生の背中を押してくれたのが、離任式に駆けつけてくれていた6年生だったそうです。「先生に頼る前に、自分たちで何とかする」という姿を見せてくれたのです。この姿は本校を去られる先生方にとって、何より嬉しいプレゼントだったと思います。

わたしは「教え子たちが泣いてくれる先生たち」と共に働くことができたこの1年間のことを、決して忘れません。それぞれのこれからの場所で、大草で培った力を生かしてほしいと思います。健康に留意され、また笑顔で再会できる日を心待ちにしておきたいと思います。新米校長を全力で支えていただき本当にありがとうございました。さようなら。

1年間見守り、支えてくださった地域の皆さん、保護者の皆さん、ありがとうございました。また令和6年度も本校教育に御理解・御協力をよろしくお願いいたします。